

### SEC 第一回セミナー 「地域社会と学校教育」 & 支部総会開催！

事務局 吉田

12月11日、北海道支部が誇るスーパー教員 村田城司先生らが中心となって活動している標茶町コンピューター教育研究委員会 (SEC) の第一回セミナー「地域社会と学校教育」が開催され、管内や近隣の自治体から大勢の教育関係者が押し寄せ、熱い教育バトルを繰り広げました。



小松さん、遠路はるばる...PowerPointお疲れさまでした。

基調講演では、この春に無理矢理清田NCのメンバーに押し掛けられて我々の仲間となった区役所の小松さんが「地域社会と開かれた学びの場」と題して、この半年余りの活動の成果を行政との関わりを交えながらお話していただきました。

また、実践事例の発表では、根室市立柏陵中学校の北島武雄先生が「根室の教育現場におけるコンピュータ利用の現状」として、市役所を機軸としたインターネット利用の現状を紹介、青柳事務局長は「インターネットコラボレーション パーチャル雪まつり2000」と題してVSFの活動を紹介しました。

そして、地元からはPerlが趣味の中学3年生小林君と村田先生が、標茶での学校のインターネット利用の成果と、その利用の詳細についてを発表しました。

引き続いて、このメンバーに清田中尾崎先生と標茶インターネットプロジェクト野崎 政則氏を加えてパネルディスカッションが行われました。司会はいつものように武田支部長です。

#### パネルディスカッション

【武田】地域市民の活動、教育現場、コラボレーションとメディアということテーマに4名の方から事例を発表していただきました。まだ、発表されていない方から発言をお願いします。

【尾崎】今春北野台中から清田中に転勤したら情報教育という切り口が全くなかった。部活ではPHSを使ったインターネット接続を行っている。「変」をテーマに活動している。普通を違うこと。変

は物事を変えるかもしれない。教育改革はあるが自分の意識を変えることができるか。ものを教え込むことから子どもたちのサポートになる。21世紀を子どもたちはどう生きていくか。自分を変えることが大切。一番目が区役所に押し掛けていったこと。インターネットはいろいろなコミュニケーションできるが自分の住む地域に目を向けた。最終的には子どもたちは実体験が必要。そのような活動をめざす。教育課程の中に情報教育の位置付けがなから。これからは学校の教育課程の中に入れたい。そのときには地域に協力をお願いしたい。

【野崎】標茶は教育の方でいろいろがんばっている。自分で学ぶ自分でやってみる新しいことに気付くなどいろいろある。商業でも新しい発見がある。行政商業などを含めて新しいことをやっていきたい。

【武田】標茶インターネットプロジェクト (= SIP) の現状はどうなっていますでしょうか？

【野崎】いろいろな会社や商業関係や教育関係がはいつて情報化社会のなかでいろいろな方が一緒に取り組んでいる。

【村田】先ほどのものが教育関係だけ。プロバイダとしてのSIPの現状は橋本さんに...

【橋本】行政開発関係ということで、行政の側からSIPに携わっています。産学官でボランティアでやっているのがSIP。過去にチャットに対して変な書き込みをしたという事例もあるので、対応のためにログはとっている。

【村田】呼んだらすぐくる。呼ばれたらすぐいく。フットワークの軽さが組織としての特徴。お子さんがやった可能性があるということで学校を通して呼びかけている。

【尾崎】札幌市は300校の学校数万人の子どもがいる。学校同士のつながりはない。どうしてもたて割になる。清田NCはフラットな関係をめざしている。学校もこれからはフラットな関係をめざしていきたい。行政の方が進んでいて、教育委員会はこれない社会があるのかもしれない。教育行政がまだオープンにできない状況にあると思う。規模の大きさは原因。構想はあるのかもしれない



Perlが趣味の恐るべき中学3年生、小林君。末はInfosnowかIIJか。

いが、端末まで伝わってこない。

【北島】根室はプロバイダにつながっているのは、学校と行政だけ。ルータが上のどこにつながっているかもわからない。教育の場面では電算室は助け。フットワークが軽く動ける組織はない。

【武田】よんでいただいで勉強になっている。標茶は進んでい

る。札幌が一番遅れているかもしれない。顔が見える地域だからこそつながっていけるのかもしれない。できることからやろうという意識もうまれるのでは。どのような経緯でできてきたのか。【小松】ネットデイで名刺を出したとき「行政マンがなにをしに来たのか」とびっくりされた。行政と教育は離れている。行政は教育に対して手は出さない。清田は新しい地域なので、やりやすかった。地域の情報化という切り口でやった。最初はわからな



勢揃い。パネルディスカッションに集まった面々です。

かった。清田NCは子どもとお母さんという切り口ではいっていった。札幌で初の女性区長が清田区に誕生し、我々NCの活動に理解を示してくれるようになってきている。しかしながら、人事異動があるのが役所の世界で、この息吹を後進にどう引き継いで行くかが問題となってきます。

【青柳】企業との関わりという側面ですが、教育関係に関わることにについて全社的な方向性のもとということではない。社内ではNIEという切り口で教育と関わっているが、これには新聞社側の論理として活字や新聞そのものに親しんでもらおうという新聞社の下心もあり、それとは別な活動になる。ACEやVSFの事務局活動は長い目で見ると会社にとって意味があることだ。将来情報をどう活用していくかを担っているのは子どもたちだ。子どもたちの意識を今から知ることは企業の経営面からも大事なことだ。

【武田】教育利用だから安くしてくれ、とかただにしてくれ、では長続きしない。ビジネスとの関係をもっと考えなくてはならない。個人の市民として一人一人が動いていくと大きな流れとなっている。最初は個人の思いが、それがつながって仲間を生みなりたっていく。会社や行政などの括ではなく、子どもなど市民生活の側



会場は満席。近隣を巻き込んで盛り上がっています。

からみて組み直しをしていくことが共通点か。

【村田】標茶は本当によい街だ。規模は問題だと思う。札幌だとだ

めだが区単位だと動ける。自分の住んでいる街を視点に。ギブアンドテイクの関係が必要。対企業だけでなく対行政も同様のことがいえる。自分たちの街をもりあげていければと思う。

【北島】いろいろな学校でPTAを対象にした講習会が開かれている。

【武田】よくあるのは学校の機材を使い教師が行う。地域の側から学校にはいってくることは。

【北島】コンピュータもっているのは3、4人。インターネットを使えるのは1人くらいしかいない。コンピュータではちょっとくるしい。行事ではたいへんお世話になっている。

【尾崎】清田中はまだ保護者との連携はできていない。北野台中では親からの要求で続いている。東区NCも学校への連携の動きが出ている。

【武田】総合的学習などの規制緩和がはいってきている。全体をみるのが行政、コーディネートしていくのは学校、地域全体で子どもたちをみていく。学校で問題になっていることは学校だけでは解決できない。風通しをよくして地域と学校がつながっていく。話し合いのコラボのツールを使ってつながっていく。勉強のテーマや調べたいことまわりの人に聞くことができる。一人一人が自分たちの意識をかえられるか、枠を超えられるか、やれないできない理由をいいあっても前にすすめない。今日はそれをきけた。地域と地域が、人と人がつながっていくツールだ。多く参加するとそれだけ事故も増えてくる。子どもをつつんでいく組織や



標茶中では廊下や踊り場でもPCが使えます。

システムが必要。SIPの活動を参考にしていきたい。地域の人の交流のなかで見えてくる。あとはやるだけかなとおも。めざすところは開かれた学校の場合、地域との連携。そのためにネットワークは有効。ちょうど4時半になったのでこれでおわります。どうもありがとうございました。

このあと、標茶の地元のメンバーとの懇親会が開かれ、鍋一杯の魚介類を食べながら、熱い教育談義が交わされました。中でも注目すべきは、標茶町内2500世帯に対し、既にユーザが400を超えるという自治体のインターネットプロジェクト、SIPの存在です。SIPの活動が機軸となっていなければおそらく学校に254台のPCが一挙に導入されることもなかったでしょう、SECが活動を立ち上げることもなかったでしょう。

自治体が「情報過疎」を乗り切っていくために、ISDNが引けない地域があるなど様々な悪条件が重なっている標茶町が、たゆまない努力を続けている成果が現れています。

翌日、底冷えのする寒さの中、村田先生の勤務地標茶中学校で支部総会が開催されました。

## 【活動報告】

1999年度、北海道支部では定期的な教育研究会の開催をはじめとして、主要な活動として『バーチャル雪まつり1999』、『デジタル雪まつり新聞』などの活動を展開しました。さらに、各種団体に協力し、行事、講演等の事業に参加、あるいはACE本部、各支部と連携をとり、各種教育プロジェクトを推進し、ACE全国総会やMacWorldEXPOへの出展やPOEM'99への参加などを積極的に行いました。

また、支部ニュースレター（Vol.6.1～12）を毎月にわたって発



経営情報センター三田営業所の平松せんむです。

行し、会員と関連の協力団体、企業などに送付したり、情報と教育フォーラム・北海道のホームページ「オンコの木」を運営するなど、広報活動も継続的に行いました。

## 【活動の詳細】

- ・1月11日 ACE教育講演会「21世紀を切り拓く、北海道のテクノロジカル・リテラシー教育」を開催【札幌市ネットワークプラザ】
- ・1月14日 第9回高校新聞製作技術講習会開催に協力【札幌市ネットワークプラザ】
- ・1月30日～1月31日 バーチャル雪まつり1999の雪像制作を実施
- ・2月3日～2月9日 『デジタル雪まつり新聞』を編集・制作
- ・2月19日～2月20日 MacWorld EXPO1999 ACEブースで研究発表【幕張メッセ】
- ・2月20日 ACE総会に参加【幕張】
- ・2月27日 「新しいメディアで、地域や生活をより豊かに！」平成10年度浦幌町生涯学習を考える研究集会・平成10年度東部十勝社会教育委員研修会講師協力
- ・3月27日・3月28日 道立社会教育総合センター青少年教育施設職員向け講習会【日高少年自然の家】
- ・4月24日 4月度教育研究会「こどもの顔と顔が見える！ネットワーク・コラボレイティブ・エデュケーション」を実施【かでの2.7】
- ・5月9日～5月16日 Appleコンピュータ ワールドワイドデベロッパーズコンファレンスに参加【San Jose】
- ・6月11日 『北海道テレコムフェア99』で第6回マルチメディアバトルを開催【札幌そごう】
- ・6月26日 6月度教育研究会「サイバースペース・エデュケーション」を実施【北海道教育大学岩見沢校】
- ・7月8日 「ネットワーク社会における学校と地域」札幌市立平岡公園小学校父母と先生の会講演会講師協力

・7月10日～7月11日 マルチメディアキャンプ1999を実施【支笏湖幌美内キャンプ場】

・7月15日～ 「はじめてのパソコン講座」札幌市立西岡小学校父母と先生の会主催講習会実施（全3回）

・7月28日～7月29日 「視聴覚教育指導者講習会」【かでの2.7】

・7月28日～7月29日 セミナー「パソコンを使ったインターネットワーキング入門」開催協力【道都大学】

・8月5日～8月7日 POEM99『beyond classroom「教室が世界」から「世界が教室」』に参加

・8月8日 「ネットデイサミットイン群馬」に参加【前橋市】

・9月14日 平成11年度生涯学習アカデミー「聴力障害者セミナー」「インターネットの現状を知る」～メールを楽しむ～ に講師協力

・9月18日、9月25日 9月度教育研究会を実施、Appleコンピュータ MacOS X サーバセミナーを開催【Too札幌支店・札幌市ネットワークプラザ】

・10月9日～ 「新しいメディアと変わる教育～学校と地域をめぐって～」北星学園女子短期大学公開講座に協力（全6回）

・10月15日 「情報教育の推進について」～学校と地域をめぐって～平成11年度中空知4地区視聴覚ライブラリー実践交流会に講演協力

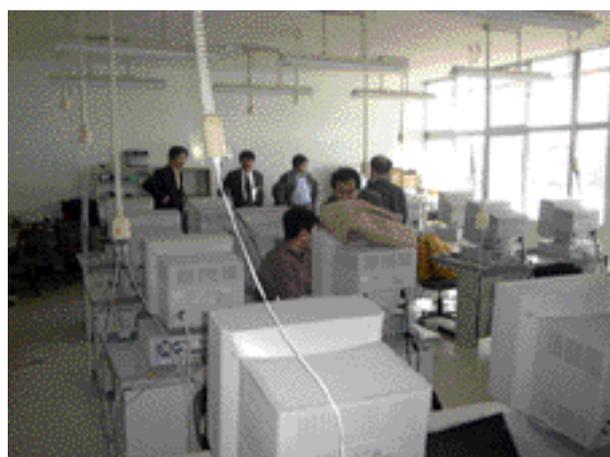
・11月13日 バーチャル雪まつり2000第一回オフラインミーティングを開催【北星学園女子短期大学】

・11月26日 北海道発明工夫教育連盟研究大会札幌大会の開催に協力【札幌市立発寒西小学校】

・11月27日 NCF『札幌・コミュニティネットワークづくりフォーラム』の開催に協力【札幌市清田区民センター】

・11月28日 99『インターネットと教育』フォーラムに参加【大阪】

・12月11日 標茶町コンピュータ教育研究委員会セミナー『地域社会と学校教育～インターネットが教育に果たす役割～』に開催協力【標茶町開発センター】



標茶中のパソコン教室。よく見る「ナニ」がない分ずっきりしています。

・(通年) 道立社会教育総合センター事業「生涯学習提供」に委員として協力

・(通年)札幌市エレクトロニクスセンター・レイティングサーバー構築研究会に協力

## 1999年度会計報告

(収入の部)

項目	金額	内訳
前年度繰越金	564,781	
イベント関連運営費	2,182,000	
VSF事業費(IPA)	1,197,000	
雪まつりWeb構築作成料	300,000	
VSF協力費(雪まつり実行委)	300,000	
VSF補助(HBCほか)	70,000	
Apple9月セミナー開催費	315,000	
本部協力金	392,840	
事務局運営費	160,000	
本部レター送付事務局費	28,840	
全国総会交通費補助	100,000	
POEM交通費補助	104,000	
研究会・総会関連	229,000	
支部総会会費	179,000	
支部総会開催費用(道新)	50,000	
その他収入	108,382	
NIE報告書制作支援費	105,000	
決算利息	382	
その他の雑収入	3,000	
計	3,477,003	

(支出の部)

項目	金額	内訳
機器購入費用	147,792	
貸出機環境整備	118,182	
オーラネット利用料	29,610	
総会、研究会費用	628,233	
支部研究会・総会費用	350,093	
全国総会交通費補助・諸経費	141,350	
POEM交通費補助・諸経費	136,790	
イベント関連運営費	801,872	
VSFサーバ維持管理費(経営情報センター)	200,000	
VSF通信費(PHS)	423,651	
VSFその他運営費	147,152	
テレコムフェアMM/バトル運営費	31,069	
その他雑費	117,475	
NIE報告書制作支援費	80,000	
MMキャンプ支援金	33,475	
学生会員会費補助	4,000	
次年度繰越金	1,781,631	
計	3,477,003	

また、2000年度の活動方針を下記の通り掲げました。

1. 教育現場でのマルチメディアとインターネットの具体的活用方法等について研究実践する。
2. 上記を目的として、年4回程度の教育研究会を開催する。
3. ニュースレターを毎月発行する。(Vol.7.1~12)
4. ACE北海道支部のホームページの企画運営を行う。
5. ACE北海道支部のメーリングリストの運営を行う。
6. 情報と教育フォーラム北海道「オンコの木」の企画運営を行う。
7. バーチャル雪まつり2000プロジェクトを実施する。
8. オンラインテキストの充実、啓蒙書の出版に努める。
9. ACE本部および各支部と連携して、POEMなどの教育プロジェクトを推進する。

10. 教育委員会、NCF、NIE推進協議会などの情報・教育関連団体の活動と連携し、各種研究会や講習会の開催に協力する。

11. その他、メディアの教育における有効活用推進に関する実践・研究に取り組む。

総会の場合では、方針に対して、バーチャル雪まつりなど年度を重ねるに従って拡がりの出ている活動をベースに、単発のイベントや研究会という形ではなく、年間を通じた学校間交流の場を展開していくことを考えたり、来年度以降軌道に乗っていく公立学校のインターネット接続のプラットフォームを見据えて活動を行っていく必要があるという話や、2001年に控えている北海道POEMの開催内容も議題としてあげられていました。

## 2000年予算計画

(収入の部)

項目	金額	内訳
前年度繰越金	1,781,631	
イベント関連運営費	500,000	
VSF協力費(雪まつり実行委)	200,000	
雪まつりWeb構築作成料	300,000	
本部協力金	320,000	
POEM交通費補助	100,000	
ACE総会支部交通費補助	100,000	
事務局費	120,000	
計	2,601,631	

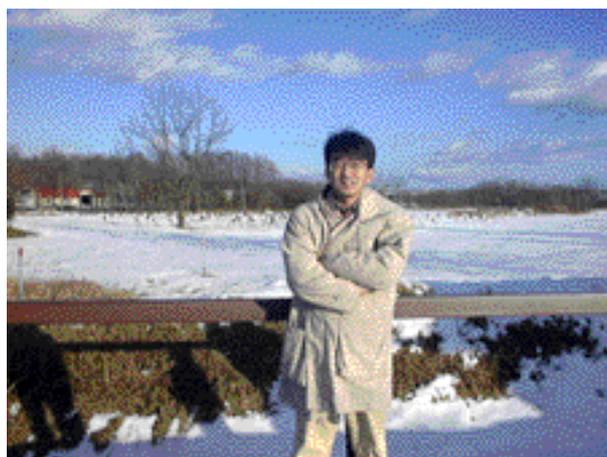
(支出の部)

項目	金額	内訳
バーチャル雪まつり運営費	1,000,000	
サーバ運営費(経営情報センター)	200,000	
回線等使用費	500,000	
備品購入費・会議費	300,000	
支部研究会・総会費用	170,000	
99年度支部総会	50,000	
支部研究会(4回開催予定)	120,000	
全国総会、POEM費用	300,000	
交通費補助	200,000	
その他補助	100,000	
機器購入・環境整備費	100,000	
雑費・予備費	1,031,631	
計	2,601,631	

月次の活動計画予定は下記の通りです。

1月 新年交礼会

2月 バーチャル雪まつり、デジタル雪まつり新聞、ACE全



後ろは鶴です。

国総会、MacWorldExpo2000 in TOKYO 出展  
 4月 教育研究会  
 6月 マルチメディア・バトル、教育研究会  
 7月 マルチメディアキャンプ  
 8月 ACE全国大会POEM2000 in 関西  
 10月 教育研究会1  
 12月 教育研究会、北海道支部総会

このあと、1999年度のMGT（もっともがんばったTeacher）として、発寒西小の高橋裕幸先生を選出し、2000年のMac World EXPOへご招待の副賞を授与しました。

高橋先生の受賞の言葉です。

私がこんな賞をもらっていいのかなって感じです。今回の発明工夫連盟の授業も、私が授業したというより、多くの支援者の方々といっしょに創り上げたと言った方がいいでしょう。様々な形で協力してくださった皆さんに、本当に感謝しています。

このあと、JRチームを釧路まで送り、事務局コンピは夕刻の飛行機に乗るまで、釧路のそば屋を梯子したり鶴の営業地を梯子したりして、道東の冬を満喫しました。

さあ、2000年度もがんばっていきましょー！

## バーチャル雪まつり 第2回ミーティング開催

先月の第1回に引き続き、12月18日（土）にバーチャル雪まつり（VSF）の第2回ミーティングを、北星短大にて開催しました。

今回の目的は、参加各校からの一押しアイデアを発表してもらい、それをまとめてテーマの方向性を出すことです。そのためのツールとして、前回不運も重なって失敗したインターネットによるテレビ会議も含まれています。道外からの参加校は以下の通りです。



玉川学園小学部  
（東京都）  
WebImage Serverと  
iVisit

上庄中学校（福井県） iVisit

岱明中学校（熊本県） iVisit

一方、道内からは以下の参加がありました。

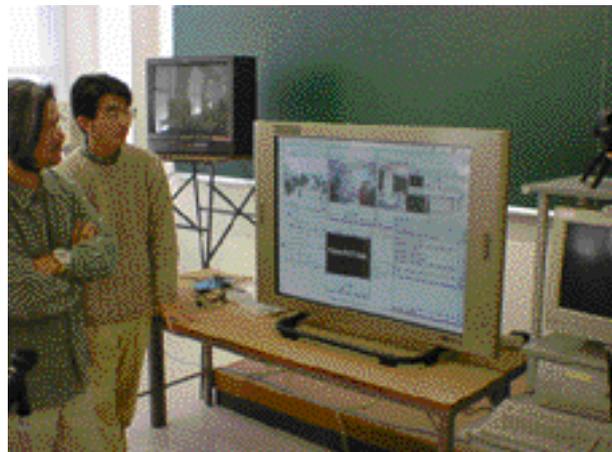
札幌発寒中、札幌啓明中、札幌清田中、小樽張碓小、札幌発寒西小、札幌東川下小、札幌屯田西小（先生のみ）

発寒中科学部の小林君の司会進行

司会的小林君。なかなかの仕切りでした。小林君の司会進行で、道内外織り交ぜての各校一押しアイデアのプレゼンテーションが行われました。iVisitによるテレビ会議も音声、動画ともかなり良好で、これは前回辛酸を嘗めさせられたNetMeetingよりもいるんな環境で使えるアプリケーションという印象でした。

肝心の話し合いの方ですが、小林君の名司会ぶりによって次第

に子供たちも堅さが取れ、昨年までも含めて何度か開催してきたVSFミーティングの中でも最も活発な意見交換が行われました。恐竜、ペガサス、亀、それに卵を組み合わせるとはどうか、などに自分たちのアイデアを発表するだけではなく、その背景の説明



リコーのメディアサイト。タッチパネル付きプラズマディスプレイです。

や、おしまいの方では他の学校のアイデアに対しての意見、感想などもちゃんと理由を付けて小学生発表する姿に、われわれ大人たちは感銘を受けていたのです。

そういうわけで盛り上がりを見せたため、最終テーマを一つに絞り込むところまでは行きませんが、それぞれのイメージしている部分を共有することはできました。その様子をしっかりと見届けていた啓明中美術部のみんなに、これから年内を目途にア



NHKの取材で「集合ビデオ」を撮りました。

アイデア・テーマのまとめをもらい、それをVSFウェブに提示してもらいます。冬休みから1月いっぱいまで、これを見ながらさらに意見交換をして、制作開始までアイデアを練っていきましょう。

## 『Media Hunting`99 in Hokkaido』 グランプリ決定

北海道発の意欲的でユニークなマルチメディアコンテンツコンテスト「Media Hunting '99 in Hokkaido」の公開最終審査会「ファイナルステージ」が去る11月29日、札幌市内で行われました。

デジタルコンテンツなら何でもあり、プラットフォームやデータ形式を一切問わず、作品ジャンルも不問、プロ・アマも問わないというユニークなコンセプト。【<http://www.aurora-net.or.jp/event/>】

hunt】

二回目の今年の作品のエントリーは全世界から1481件にのぼりました。

審査員は、ピーター・モリニュー（ゲームデザイナー）/塚本晋也（映画監督）/マイケル・アリアス（CGアーティスト）/立花ハジメ（ミュージシャン・グラフィックデザイナー）/伊波正文（写真家）/末松 亜斗夢（グラフィックデザイナー）/飯野 賢治（ゲームクリエイター）/生田 昌弘（カメラマン）/山本 強（北海道大学教授）の各氏。

イベントは、立ち見の出る盛況の中、審査員によるシンポジウムや、エントリー作品のダイジェストが上映された他、特別ゲスト・森本晃司氏（アニメーション映画監督）の「鉄コン筋クリート」のパイロット版が道内で初めて上映され、監修を担当したマイケル・アリアス氏とともに、監督自ら作品の魅力を語りました。

厳正な審査の結果、今年度のグランプリ＝メディアハンターには沖縄で活躍するデザイナー、又吉 浩氏の『monster game』が選ばれました。メディアの影響力といったものをテーマに、粘土のキャラクターが現実とテレビの世界を行き来するアニメーション作品です。

授賞式では、会食を通じて来場者・審査員・受賞者が直接話をするなどして、お互いの情報交換の場ともなりました。審査員の一人、伊波 正文さん（写真家）は、是非自分の暖めている仕事を今回の受賞者と一緒になりたいと会場に呼びかけました。

このコンテストからメディアを続々とハントするクリエイターが登場していくことを期待して、来年度のさらなる盛り上げりを演出していく予定です。

## Expo で来年も ACE ブースを！

2000年2月16日(水)～2月19日(土) 幕張メッセで今年もMACWORLD Expo/Tokyo2000が開催されます。今回はジョブスのスケジュールもあってか、会期が4日間となります。(http://www.idgexpo.com/MACW/)

会期が延びた関係もあり、当初は運営が危ぶまれたACEブースですが、IDGのご配慮や「ACEブースはすでにExpoのひとつの目玉となっている！」という励ましの言葉に奮起し、3年連続となるACEブースを開催します。

今回は、過去2年間の実績を踏まえつつも無理のない内容にしたいと思います。どのような内容にするかはまだ関東支部を中心に幹事で検討をすすめています。ACE北海道の会員の方からもどんどんアイデアを出していただければと思います。大勢で幕張に行きましょう！

現在、2月18日(金)全国幹事会、19日(土)総会～懇親会の予定です。

## 新年交礼会のおしらせ

2000年代の開始を記念して、支部新年交礼会を以下の日時に開催します。すすきのど真ん中の温泉とサウナの北欧で、飲んで泳ぎましょ(プールもあるそうです)。参加のご希望は、事務局青柳まで(011-210-5506、aoyagi@hokkaido-np.co.jp)。

ACE北海道ミレニアム交礼会

日時：2000年1月15日(土) 18時開始

場所：すすきの温泉「北欧」地下1階

札幌市中央区南6条西5丁目、011-531-2233

(ジャスマック温泉とお間違えなきよう！)

会費：4000円(飲み放題、温泉プール入り放題)

土日は駐車場が無料だそうです。



## 編集後記

前号でちらっと触れましたが、Virtual PC3.0をしばらく使ってみて、そこそこのスペックのG3 Macだと、下手なWindowsマシンよりも快適に使うことが出来ます。MacでIPを確保すると、それをローカルアドレスに読み替えて、Windowsの側で共有することが出来るので、ダイヤルアップなどの環境でもネットワークを使うことができるし、もうひとつのことはMac一台で出来るかな、という感じです。なにより安心なのは、データとシステム丸ごとディスクイメージとして残っているので、これのバックアップを取っておけばWindowsが壊れようがウイルスが入ってこようがちょっと前の状態に復旧が可能だと言うことですね。(吉田)

2学期も残すところ後わずか。今年はITC 研修や先進的ネットワークの導入などいろいろとありました。学習指導要領の告示やミレニアムプロジェクトの国会通過など、学校もいよいよインテリジェント化へと進んでいます。ACEは浮き足立つことなくしっかりと大地に足をつけた活動を進めていきたいものです。来年もよろしくお願いします。(荒島)

1900年代最後のニュースレターをお届けします。21世紀には標茶町に続く自治体が北海道のあちこちに出現し、それぞれの地域で学校を含めたすてきなコミュニティが形成されるにちがいない。校区を越え地域を越え国境まで越えようとしている「国境なき教師団」のみなさま、実現に向けて共に歩みましょう。(青柳)

ぼくたち「国境なき教師団」は、世界市民としての自覚を持ち、世界平和の実現と人類と生きとし生けるもの全てとの共存を目指し、新しいメディアを活用して、心優しき世界市民の育成に取り組み、1000年平和を実現します。(武田)

## 教育とコンピュータ利用研究会 北海道支部

1999年12月21日発行

事務局：〒060-8711 北海道札幌市中央区大通西3-6

北海道新聞社 情報開発本部内(担当：青柳・吉田)

TEL 011-210-5801 FAX011-210-5532